



2021年6月14日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 48号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。
今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. コートジ、21/22年のカカオ契約をプレミアムをめぐって争った後に販売加速(6/10)。

世界トップのカカオ生産国であるコートジボワールは、5月末までに2021/2022年シーズンの先売りカカオ契約95万トン、通常のカントリー・プレミアムではなく、カントリー・ディスカウントで販売していたことが、規制当局と業界関係者の話で今週初めに明らかになった。



* コートジボワールの国内カカオ生産量の4分の1を生産するDaloaで、販売用のカカオ豆を準備する男性

西アフリカの生産国であるコートジボワールは、通常、カカオの品質に応じて1トンあたり70~150ポンドのカントリープレミアムを付けて販売しています。また、昨年からは、通常のカントリープレミアムに加えて、生産者の賃金を上げるために、1トンあたり400ドルのプレミアムを追加した。このLID (Living Income Differential) と呼ばれる生産者へのプレミアムの結果、買い手側は合計の価格が高くなりすぎる為、カントリープレミアムをカントリーディスカウントに下げることが求めている。

関係者がロイターに語ったところによると、5月末までに合意された契約では、カントリー・ディスカウントが1トンあたり150~200ポンドとなっており、これは事実上、生産者はLIDにより追加の現金を受け取ることを意味しますが、政府の販売収入としては総収入が減少する状況になっています。西アフリカの生産者は、カカオの豊作と、コロナウイルスの大流行による世界的な需要の低迷、さらにLIDの導入により販売量が減少したため、豆の価格をめぐって輸出業者との交渉が続いていました。

5月中旬までに確認された契約販売量は56万トンで、さらに約39万トンが最終確認を待っており、ココア・コーヒー評議会(CCC)の規制当局とカカオ・グラインダーとの間でカントリー・ディスカウントの水準を巡って協議中であると、CCCおよび同国の輸出企業の関係者は述べています。

順調な販売状況

「来シーズンの販売量は合計で95万トンほどになります」CCCの関係者は、「来シーズンの販売量は95万トン程度で、目標を達成するためにはまだ65万トンから70万トンの販売量が残っているが、今の時期としては、これは良い水準である」と述べ、9月までに契約を完了させる必要があるとしています。CCCの別の関係者によると、LID導入後、規制当局は国の品質に対しての価格の割引＝カントリーディスカウントの提供を求める需要者側からの圧力に直面しており、これまでの契約における国別割引額は150～200ポンドに設定されていることを確認した。

世界の cacao 生産量の約60%を占めるコートジボワールと隣国のガーナは、通常、カントリープレミアムを付けて販売しています。また、どちらも生産者の現金収入を増やすために昨年よりLIDスキームを導入している。

アビジャンにあるヨーロッパの cacao 輸出会社のディレクターによると、CCCがカントリープレミアム（デューファレンシャルとも呼ばれる）の引き下げに合意してから、ここ数週間で契約が加速度的に成立しているという。

「世界市場のファンダメンタルズを考えると、LIDとプラスのデューファレンシャルの両方を支払うことは好ましくありません。LIDを下げてデューファレンシャルを維持するか、あるいはその逆にするか」と、名前を伏せたマネージャーは語っています。

出典：BIZCOMMUNITY

2. ガーナ・ココア・ボード、メイン・クロップ・シーズンを終了 (6/12)

ガーナ・ココア・ボード (Ghana Cocoa Board) は、Bloombergが入手した内部メモの中で、規制当局は6月17日まで申告済みの生産者からの購入品について、メインクロップ分の納品として受け付けるとしている。

3. ガーナ、新植民地時代の貿易関係を断ち切るために、まずは cacao から (6/10)

昨年のスイス訪問の際、ガーナのナナ・アクフォ・アッドー大統領は、自らのカードをテーブルの上に置いた。第2位の cacao 生産国であるガーナは、スイスに原料を出荷することで、次の世紀まで国が貧困に陥るのであれば、もう出荷しないと。

ガーナとコートジボワールは世界の cacao 豆の需要の70%を供給していますが、チョコレートバーの価値のほとんどはヨーロッパ域内と北米域内で生み出されています。世界のチョコレート産業の市場規模は1,500億米ドル以上（≒15兆円以上）の価値があります。一方、西アフリカ諸国の経済規模は60億米ドル（≒6,000億円）にも満たない。

西アフリカでは消費者向けチョコレートの需要が高まっており、その一部は輸入によって満たされているにもかかわらず、である。アクフォア大統領は、スイス連邦評議会での演説で、ガーナが原材料を提供し、完成品を輸入するという、世界のチョコレートメーカーとの植民地的な関係を批判しました。

「原材料の生産と輸出に依存した経済構造を維持し続けるならば、短期的にも中期的にも長期的にも、ガーナ国民の将来の繁栄はあり得ません」と大統領は述べました。

西アフリカの2大 cacao 産地では、ほとんどの生産者が深刻な貧困状態にあることはよく知られています。中には子供を雇ったり、森林を伐採して農地を拡張したりして生活費を稼いでいる人もいます。チョコレートのバリューチェーンの中で、生産者が得られるのはせいぜい7%です。イギリスの『フィナンシャル・タイムズ』紙の記者、デビッド・ピリング氏によると、チョコレートの製造、販売、マーケティングを行う企業が80%以上の収入を占めているという。

さらに、ガーナにはまだチョコレートバーを商業規模で生産する体制が整っていません。また、ガーナには乳製品産業がないため、粉乳を輸入しなければなりません。パッケージングは、欧米のコストや品質、洗練性に追いついていません。工場を操業する為のエネルギーはより高価で、信頼性も低い。

しかし今では、ガーナの成長する国内市場に向けて、いくつかの国内企業が板チョコを製造しています。ガーナ人の姉妹が経営する「57 チョコレート」は、高級チョコレートを小ロットで生産する職人気質のメーカーのひとつ。また、ドイツ系のガーナ企業である FairafriC 社は、アクラの北にある 1,000 万ドル（≒10 億円）規模の工場で、輸出品質のチョコレートを大量に生産しています。同社の創業者のヘンドリック・ライマーズは、豆を国内で板チョコにすることで、ガーナ国内で生まれる価値が 5 倍になるといいます。



fairafriC 社チョコレート（同社 HP より）



同社工場（弊社資料）

最後に、メイド・イン・ガーナのチョコレートは、プレミアム市場でも通用します。また、きちんとした報酬のある仕事を生み出すサプライチェーンの話に反応するミレニアル世代を獲得することもできます。

南アフリカの報道機関「The Conversation」によると、ガーナはカカオの一次加工とチョコレートの生産能力の拡大で目覚ましい進歩を遂げました。今こそ、活気ある国内チョコレート産業を発展させ、アフリカ大陸自由貿易圏が提供する 13 億人の強力な市場から利益を得る時です。

記事出典：International Press Syndicate

4. ガーナ COCOBOD、2020/2021 年のクroppイヤーに 160 万本以上の木を植える (6/9)

ガーナ・ココア・ボード (COCOBOD) は、2020/2021 年のココア収穫年に、全国のカカオ農園で 160 万本以上の森林木を、国家ココア・リハビリテーション・プログラムの一環として植える計画をしている。COCOBOD は、全国のカカオ農園の約 40% が老齢化していたり、ガーナで最も問題となるカカオの病気である CSSVD (Cocoa Swollen Shoot Virus Disease) の影響を受けていることから、その代替としてリハビリテーションプログラムに着手しています。リハビリ中の農園では、ガーナ・ココア研究所 (CRIG) が開発した高収量、早生、耐病性のハイブリッド苗が植え替えられています。

2020/2021 年の収穫期に向けて、COCOBOD の種子生産部門 (SPD) は 9,200 万本の苗を生産し、全国の生産者に配布して植え付けを行っています。これらの苗は、CSSVD で処理された農園、リハビリ中の老朽化したカカオ農園、既存の若い農園の空きを埋めるための農園など、約 83,636.36 ヘクタールのカカオ農園に植えられると推定される。



このような理由から、COCOBODは、カカオの苗を移植する前に、すべての農場に一時的な日陰用作物と永久的な日陰用樹木を植えることを義務付けています。一時的な日陰用作物は、若いカカオの木を日差しから守り、高い生存率を実現しますが、永久的な木は、すべて森林の木であり、成木に日陰と良好な温度を提供します。1ヘクタールのカカオ農園には、平均して約20本の経済林が、1,100本のカカオの苗とともに植えられています。カカオの苗木が育つと生産者に無料で提供されるのと同じように、これらの日陰用樹木もCOCOBODから無料で提供されて植えられています。このように、2020/2021年の収穫年に向けて植え替えられるカカオ農園の面積は国内全域で83,636.36ヘクタールと推定されており、カカオの苗木と一緒に約1,672,727本の森の木が植えられています。これは、環境保護、ガーナの持続的な緑の確保、植林の促進において、カカオビジネスが重要な役割を果たしていることを示しています。

ガーナ政府は、「緑のガーナ」プロジェクトの初期プログラムとして、2021年6月11日に全国で500万本の木を植える予定です。ガーナの人々は、環境保護に貢献するために、その日に木を植え、成長させるよう、国中で動員されています。

COCOBODの最高責任者であるHon Joseph Boahen Aidoo氏は、このプロジェクトへの支援を表明する声明の中で、「緑のガーナはカカオ産業にとって不可欠です。カカオの木自体が森の木であり、他の植物と調和して成長するため、生産者は生物多様性を守るためのアグロフォレストリーの実践方法を教えられているのはそのためです。また、カカオの木は炭素隔離の手段でもあります。これは、気候が変化している今の時代には非常に重要なことです。ガーナ共和国のどの地域であっても、カカオ栽培のために保護地域の森林に立ち入り、侵入する生産者はいないというのが、ガーナ共和国政府の方針です。緑のガーナを祝うにあたり、私たちは生態系の恩恵を考え、その保護に努めましょう」と伝えた。

また「国内には850,000世帯のカカオ生産者があると言われています。私たちは、地区役員、技術スタッフ、コミュニティの農業改良普及員に、この活動への参加を促し、動員することを求めます。すべての生産者がこの日に少なくとも5本の木を植え、それを育てることができれば、カカオ生産者だけで、ココア・リハビリテーション・プログラムで植えられている160万本以上の木に加えて、425万本の木を「緑のガーナ」プロジェクトに貢献することになります。カカオのバリューチェーンに関わる他のすべてのステークホルダーも、機

会があれば、この日に木を植え、それを育てていくことをお勧めします。緑のガーナ「プロジェクトは、すべての人々の支援を必要とする、称賛に値する取り組みです」と述べています。

出典：COCOBOD ホームページ上のプレスリリースより

5. ブラジル・バイーア産ココアの収穫量が2005年以來の高水準に(6/7)

ブラジルのカカオの主要な生産地であるバイーア州産カカオの入荷量が引き続き急増し、今シーズンの累計生産量が2005年以來の高水準に達したと、アナリストのThomas Hartmann氏が発表した。

- ・シーズン開始して、4週目には過去最高の数量を記録
- ・パラ地域の数字は「強い成長」を示した
- ・5月30日までの1週間で、バイーアからの到着量は、前週の98,801袋から111,960袋に増加

地域ごとの着荷数量

- o Para (パラ) : 42,146袋 (対 前週 28,081袋)
- o Espirito Santo (エスピリトサント) : 837袋 (対 前週 1,370袋)
- o Rondonia (ロンドニア) : 976袋 (対、前週 905袋)
- バイーア州のファームゲート価格は2,516~2,609ドル/トン相当で週を終えた。
- ICE-U.S.に対するプレミアムは、平均で125-191ドル/トンから137-199ドル/トンに縮小した。

6. ナイジェリア南西部でミッドクロップの後半戦の収穫開始(6/10)

ナイジェリア南西部では、2020-21年のミッドクロップココアの後半の収穫が始まった。

3月から5月にかけて行われたミッドクロップの前半では、生産者は高温多湿の天候に悩まされ、品質の悪い豆しか収穫できなかつたと、オヨ州の州都であるイバダンのカカオトレーダーであるBiola Ogunyemi氏は語った。その時期に収穫されたココア豆は、干ばつの影響で異常にサイズが小さく、買い手にとって魅力のない豆だったという。しかし、その後、定期的に降雨があったため、この3週間でカカオの状態は改善されたとOgunyemi氏は述べています。

輸出業者に代わって生産者からココアを購入している集荷業者のアデ・オルコヤ氏によると、この地域のココア豆の数は現在、300粒あたり240グラム(=100g当たり125粒)で、5月初めの190~220グラム(=100g当たり150粒前後)から増加しているという。

より品質の高いカカオ豆が市場に出回るのは、これから2週間後だという。現在は雨が多く降っているが、雨の合間には十分な日照時間があり、豆を適切に天日乾燥させて販売することができるというオルコヤ氏は付け加えた。ミッドクロップの収穫が終わるのは、2021-22シーズンのメインクロップの収穫が始まると予想される8月下旬から9月にかけてだという。

「現在のミッドクロップの収穫は、2021-22年のメインクロップの収穫まで続くことになり、2つの作物の間に休みはありません。新しい雨がミッドクロップの生育を促進しており、その収穫は9月まで続くでしょう」とオルコヤ氏は述べています。

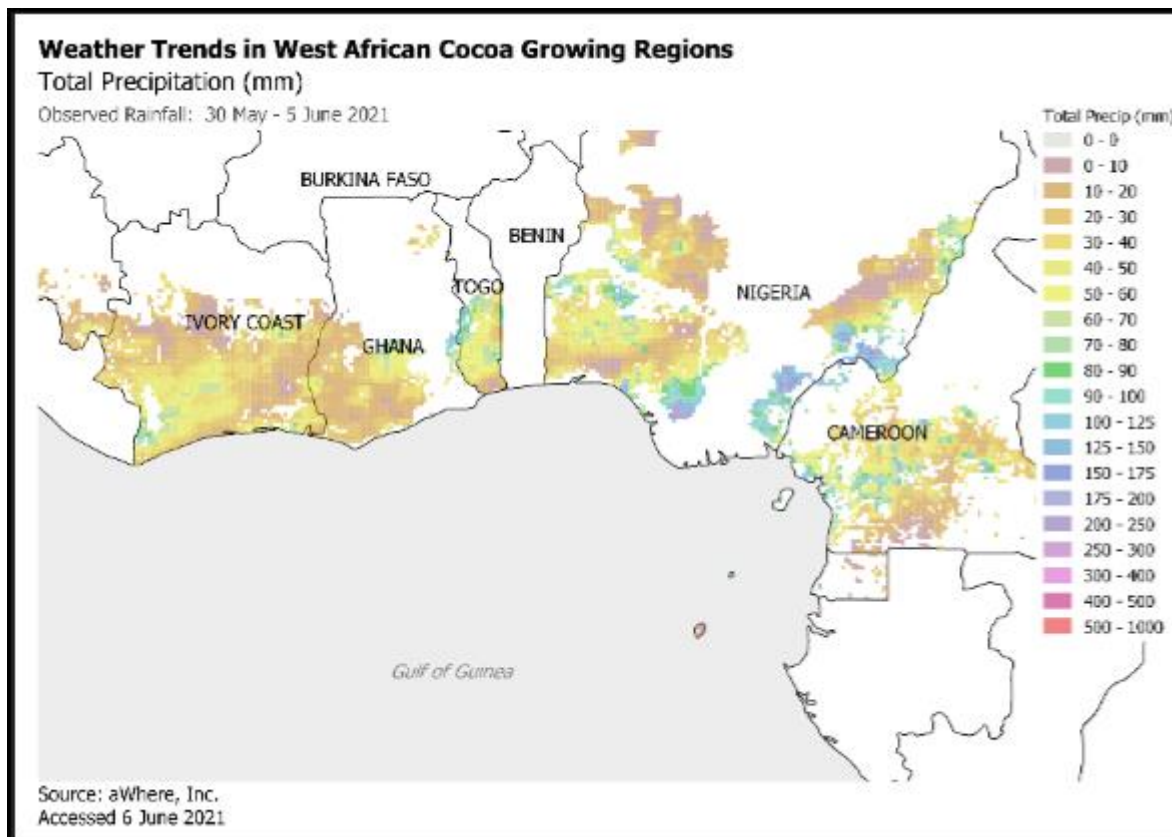
ナイジェリアの南西部(オグン州、オヨ州、オスン州、オンド州、エキチ州)は、国内の年間カカオ生産量の70%を占めており、業界団体の推計ではこの地域での生産数量は25万~28万トンとされています。また、ミッドクロップは年間の総生産量の30%を占めます。

7. アフリカカカオ：コートジボワールの豊富な雨がミッドクロップの見通しを高める(6/9)

最大の生産国であるコートジボワールのカカオ生産者は、好天に恵まれ、豊富な雨量がミッドクロップの収穫の見通しを高めている。

西部の町、Krozealé で農業を営む Olivier Gonti 氏は、「天候のおかげで開花と若いカカオポッドの成長が促進されている」と語った。ブルームバーグの調査によると、中央部の生産者では、定期的な雨のおかげで乾燥していたカカオの木が成長を再開したと言います。北部では、集中豪雨により農園へのアクセスが困難になったという生産者もいました。

隣国のガーナでは、南西部の生産者が過去 1 週間に 4 回の豪雨を報告し、最近の干ばつへの懸念が和らいだと言います。



6月5日までの1週間における西アフリカのココア生産地域の降水量。Credit: aWhere, Inc.

世界のココア市場が予想以上の余剰に直面している中で、主要生産地での好天は、月曜日にニューヨークで1ヶ月ぶりの低価格を記録した価格の重荷となっています。シカゴに本拠を置くハイタワー社のレポートによると、昨年のパンデミックの最中に世界的な需要が減退したため、西アフリカの生産国は今シーズンのミッドクロップのカカオの在庫を減らすために販売活動をしているという。

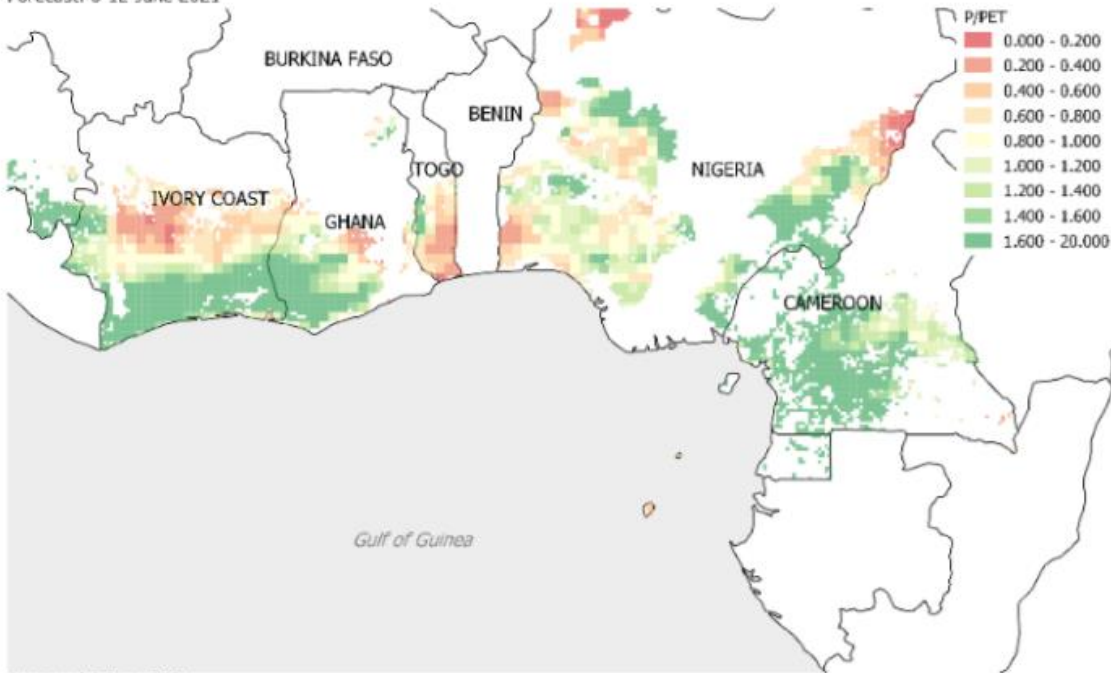
「市場にはかなりの量が供給されているが、西アフリカ地域が来月中に大きな降雨がなければ、ミッドクロップの生産量は予想を下回る可能性がある」とレポートは述べている。

カメルーンでは、生産者から定期的な雨が報告され、植物が新鮮な葉を生産するのに役立ち、ポッドの健康に良い兆候が見られた。

Weather Trends in West African Cocoa Growing Regions

Precipitation over Potential Evapotranspiration (P/PET)

Forecast: 6-12 June 2021



*6月6日から始まる週のP/PET予報。P/PETとは、降雨量とその地域の蒸発需要量の比を示したものです。比率が1を下回ると、その期間に水分が不足していることを示し、数値が低いほど作物へのストレスが大きいことを意味します。地図クレジット：aWhere

ナイジェリア南東部の栽培地域では、生産者は平均以下の収量でミッドクロップの収穫を終え、最近の豪雨で木々が復活したため、次に来るメインクロップに集中しています。南西部の生産者では、過度の暑さで花やさやが痛んだ後、乾燥した土壌を回復させるためにはさらに降雨が必要であると述べています。

「西アフリカの多くの地域では、収穫が遅れているミッドクロップや来シーズンのメインクロップの生産に有益な、今月の豊富な降雨を必要としている」とハイタワーのレポートは述べています。「もし降雨量が少なければ、2020-21年のフルシーズンの生産総量の予想は、今年の後半に下方修正しなければならないかもしれない。」

8. ファンド勢のニューヨーク・カカオ先物は純買い越しポジションを減らす (6/12)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買い越しポジションを2,312ロット減らして、9,663ロットとなったことが、ICE米国先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、6月8日)の取引が含まれている。

- 総買い数量は今週1,378ロット増加し、40,018ロットになった。総買い数量は過去3週で一番高い。
- 売りポジションの総量は6月8日までで、前週より3,510ロット増えて、30,355ロットとなった。

9. ファンド勢のロンドン先物は純売りポジションが増加。過去10か月で一番弱気に (6/12)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純売り越しポジションを10,895ロット増やして、13,981ロットとなったことが、ICE欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、6月8日)の取引が含まれている。

- 純売りポジションの総量は過去10か月で最も弱気水準 (売られ過ぎ状態)

- 買いポジションの総量は6月8日までで、前週より2,598ロット減って、7,607ロットとなった。
- 買いポジションの総量は、過去のデータの中で最も低い数字。
- 売りポジションの総量は6月8日までで、前週より8,297ロット増えて、21,588ロットとなった。
- 売りポジションの総量は過去10か月で一番高い数字。

⇒少なくとも投機筋のロンドン市場は先週火曜日の段階では、かなり売られ過ぎで、買いロットが異常に少ない状態になっている。今は、コートジバールやガーナの新作の先渡し契約分の実売があり、トレーダーのヘッジ売りがある為、全体として売りはなくなりますが、投機筋の買いが明らかに少ないため、ロンドンの相場は今週は少し回復してくると予測。

10. 新商品情報：メゾンカカオのレストラン「ROBB」魚×カカオのマリアージュが新登場

鎌倉駅前の銀行跡地に構えるカカオ料理レストラン「ROBB」を運営するメゾンカカオ株式会社（本社：神奈川県鎌倉市、代表取締役：石原紳伍）は、6月24日（木）より週4日・夜のみの営業に切り替え、“魚とカカオ”のマリアージュを主役としたメニューに刷新、リニューアルオープンする。



※ 写真はフルコースメニューのイメージ（季節によって変更あり）

「ROBB」は、生チョコレートブランドを持つメゾンカカオ株式会社が、鎌倉野菜を使用した“カカオ料理”を提供する新ジャンルレストランとして2019年に誕生した。歴史を辿っても、カカオは昔調味料として料理で多く使用されており、特に野菜や肉との組み合わせが多かったとされている。今回の取り組みは、日本ブランドとして「魚料理」とのマリアージュに挑戦しカカオ料理の可能性を見出していきたいというブランド代表兼カカオディレクターの石原さんの思いから始まった。

魚は焼津の老舗魚店、「サスエ前田魚店」の前田さんより毎朝新鮮な魚を仕入れており、石原さん自らキッチンに立ってその個性や味わいを引き立たせるカカオ料理を創作している。コロンビアでカカオの栽培から携わっているからこそ知れた、チョコレート以外のカカオの可能性が感じられる全10皿のとおきのフルコースを楽しんでみてはいかがだろうか？

*商品説明および写真は下記より

<https://www.google.co.jp/amp/s/prtimes.jp/main/html/rd/amp/p/000000071.000026789.html>

* ROBB ご予約はこちらから

<https://www.laterre.com/>

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。